

加藤内科広報新聞 10月号

インフルエンザは毎年12月から2月にかけて流行し、肺炎や気管支炎等の合併症を引き起こして重症化することがあります。インフルエンザが流行する前に予防接種を受けることで重症化や合併症を予防しましょう。



* インフルエンザ予防接種のご案内 *

10月23日(月)より開始いたします。(※予約制ではありません)

対象者	金額			問診票
		当院かかりつけ医	左記以外の方	
65歳以上の 堺市在住の方	1回目	1500円	1500円	ブルー
	2回目	3200円	3500円	白
13歳以上の方	1回目	3200円	3500円	白
	2回目	3200円	3500円	白
3歳~13歳未満の方	1回目	3000円	3500円	白
	2回目	3000円	3500円	白
3歳未満の方	1回目	3000円	3500円	白
	2回目	2500円	3000円	白

*当院かかりつけ医とは、平成27年以降、診察や健診で2回以上の診察履歴がある方とします。予防接種のみでの来院履歴の方は、かかりつけ医の対象外となりますので、ご了承ください。

* 接種当日のお願い

問診票の記入・検温(37.0℃以下)をご自宅で済ませて、診察券・保険証・医療証をお持ちの上お越しください。お熱が37.0℃以下でも風邪症状がある場合や、周りに風邪を引いている方がいる場合は接種を控え、体調の良い日にお越しください。接種が出来なかった場合、診察料がかかります。

* 予防接種可能な日時 (受付は診察時間終了の15分前です)

診察時間内

- ◇ 午前の診察時間中 午前9~12時 (受付は11時45分まで)
- ◇ 月・火・水・金曜日の午後の診察時間中 午後5~8時 (受付は7時45分まで)



現在、当院で継続的な通院・投薬治療をされている患者様は診察に来られた日に接種が出来ます。

診察される日に予防接種もご希望の方は、あらかじめ問診表をご記入の上、検温を済ませてお越しください。

予防接種専用日 11月18日(土) 午後2時~4時

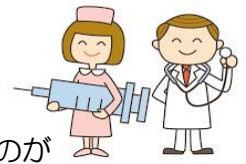
予防接種専用日以外で予防接種のみで来られる場合、診察の方が優先となり待ち時間が長くなる場合があります。なるべく、予防接種専用日にお越しいただくようお願い致します。

インフルエンザ予防接種助成制度について

堺市では、堺市在住で市民税非課税世帯に属する方や生活保護世帯の方等、ワクチン接種の実費負担が免除される制度があります。詳しくは医療機関窓口または地域の保健センターにお問い合わせください。

西区保健センター TEL 271-2012

* インフルエンザ予防接種に対する Q&A *



インフルエンザとは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる病気です。主な症状では、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、のどの痛み、鼻汁、咳等の症状もみられます。普通の風邪と比べて、重症化しやすく、特に心臓病、慢性の肺疾患、糖尿病、腎臓病などの慢性疾患をお持ちの方は、肺炎を併発したり、症状を悪化させてしまう恐れがあるので十分注意してください。

Q：毎年接種したほうがいい？

A：インフルエンザウイルスは毎年のように変異しながら流行します。ワクチンは毎年そのシーズンの流行を予測して作られます。また、ワクチンの感染予防効果は接種後2週間から5ヶ月程度までと考えられていますので、インフルエンザの予防に十分な免疫を保つ為には毎年接種を受けた方がよいでしょう。

Q：2回接種したほうがいいの？

A：13歳未満の方は2回接種、13歳以上の方は1回接種となります。大人の方は今までインフルエンザに感染したことがあろうとの予測で、少なからず免疫抗体は出来ていますが、お子様はまだ免疫が出来ていないことが多く、1回目の接種で免疫を作ることを教え、2回目の接種で抵抗力を作る、となりますので2回接種をした方がよいでしょう。但し、13歳以上の方でも、基礎疾患をお持ちの方で2回接種が必要な方もいらっしゃいますので、医師にご相談ください。

Q：1回目と2回目どれくらいあけるといいの？ 予防接種の効果は？

A：13歳未満の方は2～4週間あけて2回目の接種を、13歳以上で2回接種の必要な方は1～4週間あけて2回目の接種をすることで効果が少しアップし、有効期間を長く持続することが出来ます。当院では3週間あけて2回目の接種をお勧めしております。

6歳未満の子どもに対するワクチンの効果（有効率）は20～30%、6～13歳未満の方は50%、13歳以上の方は70～80%の効果があり、接種してから2～4週間で効果が出てきだし、約3～5ヶ月持続すると言われています。予防接種をしたからと言って、インフルエンザにかからないわけではありません。症状が軽くすみ、重症化を防ぐためですので、予防接種をし、インフルエンザにかからないように、うがい・手洗い・外出時マスクの着用等の予防も心がけましょう。

Q：他の予防接種もしたいが、どれくらいの期間あければいい？

A：インフルエンザの予防接種の接種日から1週間あけると、他の予防接種が出来ます。また、これからインフルエンザの予防接種を受けられる方は、生ワクチン接種後は4週間、不活化ワクチン接種後は1週間あけてから接種して下さい。



Q：妊娠中・授乳中でも接種は可能？

A：支障ありません。インフルエンザワクチンは不活化ワクチン(病原性をなくしたウイルスを使用しています)ですので、胎児や母乳を介してお子様への影響はありませんが、心配・不安がある方は現在かかっている産婦人科にて、ご相談ください。

Q：副反応は大丈夫？

A：接種部位の発赤・腫れ・痛みなどが出る事がありますが、通常2～3日でなくなります。全身の反応としては、風邪のような症状・発熱・頭痛・寒気・倦怠感などが見られますが、こちらも通常2～3日でなくなります。もし症状が治まらない場合は、医療機関を受診してください。また、稀ではありますが、ショック・アナフィラキシー様症状(発疹・蕁麻疹・発赤・掻痒感(かゆみ)・呼吸困難など)がみられることもあります。そのような異常が認められた場合には、速やかに医師に連絡して下さい。たまごアレルギーの方は前もって医師にお伝え下さい。

月一回の保険証の提示をお願いします。

11月1日から国民健康保険証(緑色)・ひとり親家庭医療医療証(水色)・障害者医療医療証(緑色)が新しくなります。期限の切れた保険証・医療証では保険診療が受けることが出来ませんので、ご注意ください。